

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

教育基本法にのっとり、全人的教養と社会性の啓培に努めるとともに、「質実剛健」「自主自律」の精神を育成する。

<育てる生徒像>

志高く、自ら学び、考え、行動する、聡く心豊かでたくましい生徒
ふるさとに誇りと愛着を持つグローバル・リーダーとして、将来幅広く活躍する生徒

教育方針

「質実剛健」「自主自律」の精神のもと、全人教育を基盤とし、生徒の進路実現を著実に図るとともに、次代を担うリーダーとしての素養の伸長に努める。

- (1) 真理を愛し、幅広い知識と教養を身に付け、知性に根ざす豊かな人間性を培う。
- (2) 主体性を持ち、他者と協働する態度や、自他敬愛の念を育てる。
- (3) 心身の調和のとれた成長を図るとともに、よりよい社会生活を築こうとする態度を育てる。
- (4) 個性を伸ばし、自己の確立に努めるとともに、高い志を持ち、進路実現や目標の達成に粘り強く取り組む姿勢を養う。
- (5) ふるさとに誇りと愛着を持ち、グローバルな視野で社会の発展に積極的に寄与するリーダーとしての資質・能力の伸長を図る。

2 学校の特徴

本校は、普通科（1・2学年4学級・160名、3学年5学級・200名）と理数科学科・人文社会科学科（全学年2学級・80名）を併設した学級体制である。生徒の多くは、4年制国立大学への進学を希望し進路実現に向けて、学習等に取り組んでいる。

急速なグローバル化やAI・IoT等の技術革新が進展する新たな時代に対応し多方面で活躍できる人材が求められるなか、社会の発展に積極的に寄与するリーダーとしての資質や能力を高め、未来を切りひらく人間力の育成を目指している。課題研究等の探究的活動を積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力の伸長を図るとともに、これらの活動や学校行事、部活動、地域貢献活動等をとおして、主体性を持ち、他者と協働して学ぶ態度の育成とバランスのとれた全人教育を行う。

3 学校の現状と課題

社会の急速な変化に伴い、学校を取り巻く環境も大きく変化している。「質実剛健」「自主自律」の精神を培い、高い志を持ち、困難な課題にも粘り強く挑戦し、自らの進路を切り拓く心豊かでたくましい生徒を育成する必要がある。そのため、以下6つの観点を重点事項とし、一層の教育充実に努めていきたいと考えている。

- (1) (授業改善の推進) 生徒の優れた能力を引き出すため、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善と指導方法の研究に努める。
- (2) (自学自習の定着) 授業と自学自習のサイクルで、効果的に学力の向上を図る。
- (3) (進路意識の向上) 3年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育、進路学習等を行う。
- (4) (多様な支援の充実) 校外の教育力を有効に活用し、個々の実態に応じた支援に努める。
- (5) (自主活動の充実) 豊かな人間性を培う生徒の主体的な取り組みを促し、支援する。
- (6) (グローバル・リーダーの育成) 社会の発展に寄与するリーダーとしての資質の伸張を図る。

4 学校教育計画

項 目		目標及び計画	
1	学習活動 重点1 ① ② ③ ④	目標	学校教育目標・教育方針に即した全人教育をめざし、各教科・科目において、生徒自らが問題意識を持って探究し解決する、主体的な学習態度を育成する。
		計画	<p>1 高校の学習への円滑な移行と自主的学習習慣の早期確立を促し、主体的な学習活動の実現を支援する。生活記録を利用した面談指導などとおして、生徒の生活実態の把握に努める。</p> <p>2 生徒の学習の進め方に即し、3年間を見通した教科ごとのシラバスを作成する。教科部会等とおして<u>指導者が互いに連携し、効果的な指導法の検討を行い、改善を図る。</u>また、<u>生徒課題の内容や量、時期について教科間のバランスを調整する。</u></p> <p>3 教員の授業におけるタブレット利用では、<u>先進校や研究指定校の活用例などをあげて、より活用しやすいように働きかける。</u>また、生徒のタブレット利用については、<u>学習活動やHR活動あるいは連絡ツールとしての活用</u>について研究する。</p>
2	進路支援 重点2 ① ②	目標	自分の将来の生き方あり方を早期に確立し、その実現に向け生徒個人のもつ適性と能力を十分に伸ばすよう指導する。さらに、コース登録など進路を選択する様々な場面で、適切な情報を提供し、考える機会を持たせることにより自己実現を支援する。
		計画	<p>1 3年間を見通したキャリア教育に基づき、各時期に応じた進路講演会や職業理解講座等を開催し、自己像の確立を支援する。特に、<u>国内外で活躍する社会人の講演や同窓生の体験から学ぶ機会を設け、社会に貢献する自己を想像させ、学ぶ意欲を喚起させる。</u></p> <p>2 「総合的な探究の時間」における進路研究、大学学部学科紹介の実施、<u>大学見学やオープンキャンパスへの参加、面談指導等</u>を通して進路先の選択を支援する。</p> <p>3 <u>模試や入試結果等の情報収集・分析</u>を教員間で共有し、生徒への面接等に生かす。また<u>入試問題等を研究・分析</u>し、生徒の進路実現への確かな学力を養成する。</p>
3	学校生活 重点3 ① ② ③ ④	目標	社会生活を営む上で重要な、規範意識を高めるとともに、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を育成する。さらに、様々な特性や課題を持つ生徒への支援や各種感染症対策等、生徒が健やかに安心して学校生活を送ることができる環境作りに取り組む。
		計画	<p>1 <u>新入生説明会やPTA研修会等で保護者対象の講話</u>や新入生対象の構成的グループエンカウンターを実施し、学校への不適応等の予防的援助を行う。</p> <p>2 <u>スクールカウンセリング、事例研修会の実施</u>により、個々に応じた適切な支援を行う。</p> <p>3 <u>校門指導</u>や集会等により服装や挨拶への意識を高める。校則や社会規範の遵守を促す指導を進める。</p> <p>4 交通事故の予防や交通マナーの改善、危機管理能力の育成に努める。SNSに潜む危険性や利用マナーについての啓発を進める。</p> <p>5 生徒保健委員会で「保健だより」を発行し、健康で充実した学校生活を送るための基本的な生活習慣や睡眠の重要性に関する啓発活動を行う。また、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等については、感染状況を踏まえ、適宜、感染予防の啓蒙を行う。</p> <p>6 校地内外の環境美化に積極的に取り組み、学校や地域への帰属意識や愛着を深める。</p>

項 目		目標・及び計画	
4	特別活動 重点4 ① ② ③	目標	豊かな人間性と情操の育成及び自主自律の精神、自他敬愛の念と協調的な生活態度の育成を図る。また、読書活動の推進と生徒図書委員会の活性化を図る。
		計画	<p>① 部活動への積極的な参加を通して、活動の充実感や目標の達成感を味わわせるとともに、学年の枠を越えた良好な人間関係の確立を図る。</p> <p>② ホームルーム活動を通して、教師と生徒、生徒相互の良好な人間関係を築く。</p> <p>③ 生徒会活動への積極的な参加を促し、生徒会が関わる学校行事を計画的に運営する能力を高める。また、奉仕精神を涵養するため、ボランティア活動への参加を呼びかける。</p> <p>④ 推薦図書の掲示などの広報活動を積極的に行うとともに、「特設コーナー」の定期的な設置により、生徒の読書への意欲を高める。</p> <p>⑤ 生徒図書委員会による広報活動を活発化し、読書への意欲を高め、貸出冊数の増加を図る。</p> <p>⑥ 文化講座や読書会の開催、教科・学年と連携した図書館の活用により、自主的に学ぶ態度を育成するとともに、総合的な知性の啓培に努める。</p>
5	その他 重点5 ① ②	目標	ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成に努める。保護者や同窓会との連携を図る。
		計画	<p>① 人文社会科学科及び理数科学科においては、課題研究等の探究活動をとおして協働性を養い、リーダーとしての資質を高めるよう一層の充実を図る。普通科においては、総合的な探究の時間で教科横断的に思考力を育てる。</p> <p>② 大学等との連絡を密にし、また学年等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。</p> <p>③ 海外大学との研修等を通して、自己発信力などグローバル・リーダーとしての能力を身につけさせる。</p> <p>④ PTAだより、同窓会報、ホームページ、学校紹介の掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。</p> <p>⑤ 研修会等について、保護者の意見も反映し、様々な工夫を重ねていく。</p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 高岡高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導
現 状	<p>これまで本校の生徒は、授業を大切に、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声が聞かれる。また、教員に積極的に質問し、納得いくまで理解しようとする生徒が減っているとの声もある。変化の激しいこれからの社会で活躍するためには、自律的、主体的に、他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。</p> <p>一方で教員側も、中学の段階でどのように指導方法が変化しているかを確認し、新たに主体的・対話的で深い学びの視点からの指導方法を研究・実践することが大切である。</p> <p>教員・生徒に貸与されている一人1台タブレットは、学習活動に有効に活用されている。また、今年度文部科学省より「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」採択校となり、ICTを活用した探究的な学びを強化することがますます期待される。</p>
達成目標	①②③学習課題への取組
	④ ⑤情報機器の有効活用
	<p>①計画的な学習と振り返りを習慣としている生徒 70%以上</p> <p>②疑問点は友人や先生に質問して理解をした生徒 80%以上</p> <p>③ 中学校を訪問し、授業見学や教員間の懇談を行う教諭 30%以上</p> <p>④ 各教員の授業における生徒タブレットの恒常的な活用 85%以上</p> <p>⑤ 生徒の学校生活や学習におけるタブレットの有効活用率 85%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学習手帳の使用を通し、学習の計画と振り返りを習慣化させるとともに、学習時間調査を行い生徒の取り組み状況を分析する。その結果をふまえ、担任・教科担当者等による面接指導をすすめ、学習意欲を喚起させる。 中学校数校と連絡を取り合い、互いに授業見学を行えるよう交流を深める。得られた指導上の工夫などの情報集約と共有化を行い、学校全体で指導方法の改善に活用する。 授業におけるタブレット利用では、様々な場面での活用例などを紹介し、学習者主体のICT機器活用が実現できるように働きかける。 生徒のタブレット利用では、共有フォルダの使用を活用し、恒常的に扱えるよう指導する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	高い志を持つ自律的な学習者の育成による進路支援	
現 状	<p>・高い志を持って学業に取り組む生徒が自身も納得のいく入試結果を手にする姿が多く見られる本校において、自己の能力や可能性を生徒各々が大切にし、また集団で相互に関わり合いながら伸ばしていく仕組み作りをしっかりと構築する必要がある。「大学の向こう側にある社会」を意識させながら、目標を立てて主体的に自身の進路を切り開いていく姿勢を涵養し、「高岡高校で学んで良かった」と生徒が実感できるような進路支援に全教職員で取り組んでいく。</p>	
達成目標	① 学習の自己評価を踏まえた面接指導の充実	② 志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)
	年6回以上	58%以上
方 策	<p><生徒対象></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会や個人面談、外部講師による進路講話、卒業生による職業理解講座、実社会と関連付いた探究学習との連携等を通して、将来の進路と高校の学習内容の関連を考察させる。 ・高い志望を貫いた先輩の体験談や、卒業生による大学学部学科紹介を通して、学習に対する姿勢や、大学での学問を深く知るための動機付けとする。 ・学習時間調査を通して自身の学習の計画と実践を軌道に乗せ、振り返りの機会を設けて自己評価と自己分析を行い、必要な改善を取り入れて自らの取り組みを深化させる。 ・既卒生に対しても積極的かつ継続的に進路支援を行う。 <p><教員対象></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報を収集・分析し、効果的な指導法や対処すべき課題について教員間で共有する。 ・大学入試問題研究や進路判定会議等の機会を活かし、より良い進路支援について個々および集団で検討し、教科指導や進路指導につなげる。 ・学習時間調査結果を分析して生徒の学習への取り組みを把握し、学力の伸長につながる助言指導等を工夫し面接指導に反映させる。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚と安全意識の育成 ・学校生活への円滑な適応と心身の健康保持 ・学校環境の整備・充実と基本的な感染症対策の徹底 	
現 状	<p>・社会生活上必要な基本的マナーや規範が身につけていない生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。情報通信機器の利用に当たっての危険性についても指導するとともに他者を思いやる心を育て、いじめの防止につなげる。</p> <p>・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が年々増加傾向にある。その実態と主たる要因を把握し、時期を失することなく適切な支援を行うとともに、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生予防を図っていく必要がある。</p> <p>・基本的生活習慣の確立や快適な環境維持の重要性を生徒は認識しつつも、十分に実行できていない。学習効率の向上と心豊かな学校生活の基盤となることを理解させ、心身共に健康的な生活実践の態度を育成する必要がある。</p>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の人的成長と自立を促すための声かけ ② 各種事故の発生件数減少 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 心身の不調を訴える生徒への適切な対応と職員等の意識の醸成 ④ 学校環境の整備充実、感染症予防活動の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ① 登校時の校門指導週間 年5回 休み時間や放課後等の巡視 通年 ② 交通事故発生件数 年5件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ③ カウンセリング等 年32回 保護者対象講演会 年2回 教職員対象研修会 年2回以上 生徒対象メンタルヘルス講座 年1回 ④ HRにおける啓蒙活動 年2回以上 校舎内大掃除や舎外清掃 年9回以上 教室の換気の徹底
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。 ・学校教育活動を通じてコミュニケーション能力を高め、周囲と協力して各種活動に取り組ませることで成長を促すとともに、いじめ防止につなげる。 ・サイクル安全リーダーによる交通マナー遵守の呼びかけとともに街頭指導を行う。 ・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面接・集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。 ・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。 ・生徒、特に心身不調の生徒の理解に努め、スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員と教師、家庭、関係機関との連携を深め、適切な支援を行う。 ・教職員対象研修会により、生徒や保護者との良好な関わり方を学ぶことで、生徒に寄り添いながら信頼関係を構築していく姿勢を醸成する。 ・校舎内大掃除や舎外清掃を実施するとともに、ゴミの分別を徹底させ、資源の節約や再利用に対する意識の向上に努める。 ・健康で充実した学校生活を送るための基本的生活習慣や睡眠の重要性について啓蒙活動を行う。感染状況を踏まえ、適宜、感染予防の啓蒙を行う。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動の両立、生徒数減に対応した特別活動 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね部活動は活発に行われており、上位大会に出場して活躍する生徒もいる。その一方で、加入しない生徒、活動実態の少ない生徒も見受けられる。また、学習を理由に途中退部する生徒も増えてきており、両立した活動が難しくなっている様子が見られる。その結果、部員不足により活動に支障をきたしている部も見られ、部全体の活性化に課題が生じている。 ・学校行事は、クラス内の交流や団結力を高める良い機会になっている。 ・生徒会活動に意欲的に参加する生徒が増え、生徒会執行部とは生徒数減などの課題を共有しながら行事の改革に取り組んでいる。 ・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちであり、読書量、来館者ともに生徒による格差が大きい。日常的に読書に親しむ習慣を育むために、普段から図書館へ来館するよう、より一層、教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。 ・図書館の利用者をより拡大するため、生徒図書委員会の活動を活発化するとともに、授業やホームルーム活動での図書館利用を促進し図書館に対する関心を高めたい。 	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上	②図書館の利用促進
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上 ボランティア活動への参加者 のべ800名程度	② 授業利用以外での学期に2回以上の来館者 40%以上 ホームルームでの利用 年6回以上 授業での利用 年3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活動計画を作成し、計画的で質の高い活動となるよう指導する。転退部理由に注目し問題解決に努める。 ・部活動や学校行事に関するアンケートを実施し、充実度や満足度を調査するとともに、活動実態を把握する。 ・生徒の読書欲を喚起するため、「特設コーナー」の設置や広報活動の活性化をすすめる。 ・文化講座と読書会を、合計3回開催する。企画運営には図書委員を積極的に関わらせる。また、図書委員を中心とした図書館でのホームルーム活動を推奨する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

